

【イベント実施報告】「福島相双復興シンポジウム」

～相双地域の事業・なりわいの再生から福島の未来を創造する～

3月3日、福島相双復興推進機構（福島相双復興官民合同チーム）と福島県は、郡山市のビッグパレットふくしまで、「福島相双復興シンポジウム」～相双地域の事業・なりわいの再生から福島の未来を創造する～を開催いたしました。

これは、事業再開された事業者の方々からの経験や知見、県内外で活躍する高い見識を持つパネリストからのメッセージなどを発信いただくことにより、事業・なりわいの再生について考えるきっかけの場とするとともに、福島・相双地域の未来の大きなポテンシャルを内外に示していくことを目的としたものです。

当日は400人以上の方々にお越しいただき、壇上では熱気を帯びた議論が交わされました。

基調講演では、「ユーザーイン経営と福島の復興に向けて」をテーマに、アイリスグループの大山健太郎会長から、福島の農業復興などについて貴重なメッセージをいただきました。

パネルディスカッション第1部では、「相双地域の復興をけん引する事業者の取り組みと今後のビジョン」をテーマに、相双地域で事業再開された四人の事業者が、これまでの自身の取り組みと今後の展望について熱い議論を交わしました。

パネルディスカッション第 2 部では、「相双地域から考える新しい地域の創造」をテーマに、ゲストスピーカーの高野誠鮮氏と相双地域で新たに起業した三人の事業者から、今後のまちづくりに向けた前向きな提案をいただきました。

来場者からは、「ピンチをチャンスに転換していくことが大切なのだと認識できた」等の感想を数多くいただき、実りのあるシンポジウムとすることができました。



